

策定年月	令和6年8月
見直し年月	

麦・大豆国産化プラン

産地名：伊勢崎市殖蓮地区

（作成主体：農事組合法人うえはすファーム
代表理事 膳 宗雄）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

現状

- 本地区が所在する伊勢崎市では米、麦、飼料作物の二毛作を中心に野菜等の作付も行われる米麦・野菜の複合経営が主力となっているが、水田農業を取り巻く環境は、主食用米の需要減少や悪天候による品質低下などにより厳しい状況にある。また麦作においては産地交付金である【麦の品質向上助成】の活用や、佐波伊勢崎地区での多収穫共励会への参加等により赤かび病防除や追肥による品質の安定、向上に努めている。しかし担い手の高齢化や収穫適期の不安定さから、利用集積や二毛作面積の拡大には一旦の歯止めがかかっている。

課題

- 適期収穫を可能とする作業効率の向上
- 今後、更なる増加が見込まれる遊休農地の担い手の確保
- より安定した農業経営のための所得向上

課題解決に向けた 取り組み方針

- 大型農業機械の導入と作業の省力化により高齢化問題に対応し、より一層の低コスト化実現と、認定農業者、集落営農組織等担い手農家を中心とした農地の利用集積及び経営規模の拡大を推進する。
- 二毛作における水田の有効利用を促進し収益性の向上を図る。
- 実需者ニーズに対応した品質と生産量の確保を推進し、排水対策や病虫害防除、適期収穫の徹底による、麦産地としての体質強化を図る。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

連携方針

品質安定と生産量の確保に努め、実需者の要望に応じた生産を推進する

産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標

殖蓮地区

小麦	現状年（R5） t	目標年（R9） t	JA佐波伊勢崎 契約数量（R5） t	供給先
さとのそら	132.1	133.6		
つるぴかり	212.9	217.4		
ゆめかおり	38.0	62.0		

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

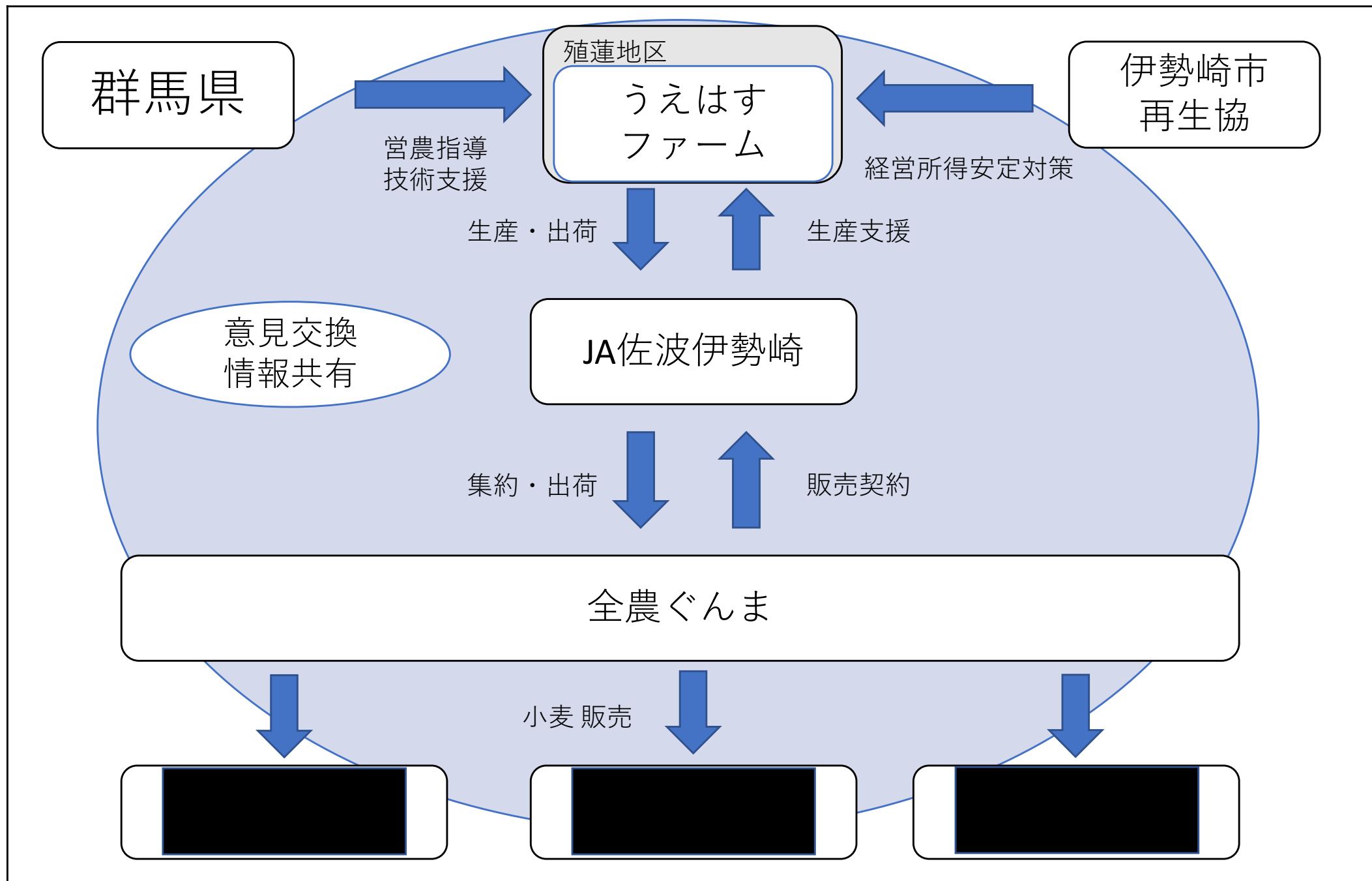
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。